

日本共産党

区民の暮らし支える仕事34年

みんなの声をあつめて 区政を動かす

党中野地区
くらし・福祉
相談室長

武田 やよい

プロフィール ● 1969年3月生まれ・東京都中野区出身。中野昭和小(現白桜小)、中野第三中学校、都立杉並高校、青山学院大学経済学部2部経済学科卒業。1987年4月中野区役所入職、2021年3月中野区役所退職。2021年4月渋谷区会計年度任用職員。2022年4月日本共産党中野地区委員会専従職員。趣味:写真撮影・草木染・旅行。家族:猫(6歳)と2人暮らし



地域の願いを実現

区民とともに

力を合わせてきた4年間



党区議団は酒井区政の与党として区政前進に力を尽くし、この4年間にさまざまな施策を実現することができました。区民の願いと議会の論戦が合わされば、政治を大きく動かすことができます。

保育園の待機児童ゼロ達成

保育園の誘致を進める中で昨年、待機児童ゼロを達成しました。保育士の配置基準を引き上げ、保育士一人当たりの子どもの数を減らして、子どもに目が行き届く保育ができるよう求めています。

区立保育・幼稚園、児童館 存続



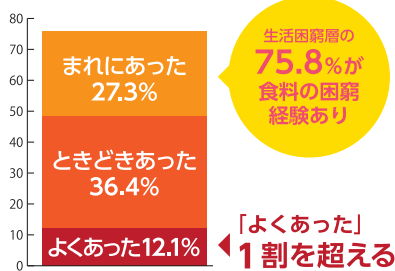
2022年10月17日、酒井区長に対して要望書を提出

前区政による、区立保育園や幼稚園、児童館の全廃計画を酒井区長とともにストップ!「子どもの施設を守って」という区民の声を政治に反映することができました。「区有施設整備計画」で全廃方針が正式に撤回されました。

子どもの貧困 実態調査 実施

党区議団は、「子どもの貧困調査」を繰り返し提案し実施へ。調査結果がベースとなり、就学援助費基準の引き上げや、子ども食堂支援、ひとり親世帯支援、学習支援など、区の事業展開へ実を結びました。現在、「子どもの貧困対策実行計画」を含む「子ども総合計画」の策定を行っています。

食料の困窮の経験について
中野区生活困窮層 小学校高学年



生活困窮層とは: ①低所得②家計の逼迫③子どもの体験や所有物の欠如、のうち2つ以上の要素に該当する層
出典: 中野区子どもと子育て家庭の実態調査報告書

暮らしと営業を守る

物価高騰から区民の暮らしと営業を守るために、影響の実態把握と介護・障害者・子ども施設への光熱費や食品など運営費支援を求め、実現させてきました。子育て世帯に対する所得制限なしの給付金を実施させるとともに、低所得世帯への中野区独自の給付金支給のために粘り強く取り組んでいます。

介護保険料の値上げを止めた

介護保険制度が始まって以来、保険料基準額は一人あたり年2万円以上の引き上げです。3年に一度改定される保険料が毎回引き上げられてきましたが、2021年にストップさせました。保険料の引き下げとサービスの充実を図るよう引き続き提案していきます。

新型コロナ対策の拡充

新型コロナウイルス感染症についての相談は党区議団に数百件寄せられ、2020年に行った区民アンケートには4500名以上から回答が寄せられました。党区議団は医療機関や介護事業者などとも懇談し、実態に基づいて、中野区独自の給付金支給やPCR検査の拡充、安全で迅速なワクチン接種、事業者への支援を繰り返し求めてきました。

区民アンケートの
声
議会へ届け
対策迫る



生活を支える 取り組みを進めます

様々な事情で税金や保険料を支払えない方がいます。背景にある困難に寄り添い、生活を立て直す支援を行うことが政治・行政の役割。人々のSOSをキャッチする仕組み、生活を立て直す支援制度や事業充実を求めています。



“東中野らしさ”を活かしたまちに 地域の皆さんと一緒に取り組みます

東中野駅東口周辺のまちづくり、西口の桜山通りの桜と菜の花の景観の維持“東中野らしさ”を活かします。区有施設の建替は、愛着を持って長く使い続けるために、住民の声を活かすよう働きかけます。東中野の真上を通る羽田新飛行ルート撤回を求め、住民の安全を守る取り組みを進めます。

